

# 未来の七郷まちづくり

宮城県仙台市立七郷小学校

実施学年：6年

実施教科：総合的な学習の時間

生徒数：154人（4学級）

実施時間数：40時間



地域のよさを再発見する活動



宅地開発の現場を見学



未来のまちの姿を模型に表現



大学の先生にアイデアを説明

## 学習のねらい

復興の担い手となる子どもたちに地域のよさを再認識させるとともに、まちづくりの学習を通して、これからの社会は何を大切にしていかなければならないかを考えさせ、未来に夢と希望を持たせる。

## 学習活動

(1) オリエンテーション	大学の先生による「まちづくりとは」の講義を受ける。
(2) 学習計画	講義内容のまとめ、学習計画
(3) 聞き取り調査活動	計画、家族や地域の人への聞き取り（課外）、まとめ
(4) 資料調査活動	まちづくりに関する内容をネット等で調べ、整理する。
(5) 見学調査活動	住宅予定地の現場を説明を受けながら見学し、まとめる。
(6) 未来へつなぐ！仙台	市防災副読本を使った防災の視点でのまちづくり
(7) まちづくりの構想	自分のアイデア、具体的に作るもの、未来とエリアの設定
(8) 模型製作活動	1日製作活動の日、その後の製作活動、見直しと修正
(9) まちづくり完成披露会	リハーサル、完成披露会
(10) 報告書の作成	報告書の作成、自己評価

## 準備品

模型の土台（スタイロフォーム 90 cm × 90 cm × 16 枚）、材料（発泡スチロール、色画用紙、紙粘土など）、道具（カッター、カッターマット、ハサミ、ボンド、テープなど）

## 実施場所

小学校ホール、教室、学区内にある住宅予定地（見学）

# 学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>用水 イグネ 発掘現場</p> <p>ホール 地域</p> <p>教室</p> <p>25 時間</p>	<p>「ふるさと七郷再発見」 ※「未来の七郷まちづくり」の前段階での活動として実施した。</p> <p>○見学活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用水の生き物調査と飼育</li> <li>・イグネ(屋敷林)のビデオ視聴と見学</li> <li>・遺跡の発掘現場の見学</li> </ul> <p>○地域自主研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学先の事前調査と選定</li> <li>・ニコン写真教室で、魅力が伝わるような写真の撮り方を教わった。</li> <li>・グループごとにコースを決めて、自主研修を行った。</li> <li>・自然や歴史、地元の店、仮設住宅に暮らす人々、生活している人たちなど、七郷のよさを見つけて写真を撮ってきた。</li> </ul> <p>○ふるさと七郷再発見写真展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を選び、題名とキャプションを付けていき、展示資料にまとめた。</li> <li>・ふるさと七郷再発見写真展(ニコンプラザ仙台)</li> </ul>	 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用水に魚がいることをはじめて知った子が多かった。</li> <li>・イグネ(屋敷林)には下学年から行っているものの、木の樹齢、種類、役目、自給自足の生活など、知らないことが多かった。</li> <li>・写真でよさを伝えるために、どう撮影すればよいかは、初めての学習だった。</li> <li>・写真で伝えられない内容は、キャプションを加えるなど、言語活動が必要となった。</li> </ul> <p>※ここでの活動が、次の「未来の七郷まちづくり」の土台となっていた。</p>
<p>ホール 教室</p> <p>2 時間</p>	<p>「オリエンテーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山形大学・佐藤慎也先生による、まちづくりのレクチャー</li> </ul> <p>○まちについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの歴史や日本と西洋とのちがい、フィンランドのまちの紹介など</li> </ul> <p>○大切な3つの視点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ユニバーサル・デザイン(人・文化から考える視点)</li> <li>②サステナブル・デザイン(自然・環境から考える視点)</li> <li>③セーフティ・デザイン(防災・安全から考える視点)</li> </ol>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生でも大学の講義が受けられるということで、プレゼンテーションを見ながら、要点と思われることをメモする姿が見られた。</li> </ul>
<p>地域</p> <p>パソコンルーム</p> <p>宅地開発の 場所</p> <p>8 時間</p>	<p>「調査活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分はどの視点からまちづくりを行っていくか、3つの視点の中から選び、調査活動を行った。</li> </ul> <p>○聞き取り調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お年寄りや仮設住宅に暮らす人など、いろいろな年齢や立場の人たちのまちづくりの意見を聞いて取り入れるため、インタビュー活動を行った。</li> </ul> <p>○資料調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットで実際にあるまちの姿や未来に向けた技術などを調べた。</li> </ul> <p>○見学調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年前、学校の目の前には田んぼが広がっていたが、今は住宅地として開発が始まっている。仙台市荒井南土地整理組合の方からお話を聞いて、実際の住宅予定地を見学させてもらった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・のべ399人から聞き取り調査を行った。</li> <li>・多くの子たちは、インターネットで検索して、視点に沿った内容の情報を得ることができていた。</li> </ul>

# 学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>ホール 教室</p> <p>15 時間</p>	<p>「模型製作活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの構想を練り、未来の七郷のまちの姿を模型に表現していった。</li> <li>○構想を練る           <ul style="list-style-type: none"> <li>エリアの設定：学校周辺のまちで、今までのまちと新しくつくられるまちの両方が含まれる。人口は約5000人程度と想定した。</li> <li>未来の設定：1, 2組が15年後、3, 4組が10年後に設定した。</li> <li>1人1人が、まちづくりの視点に沿ったアイデアを考えた。</li> <li>子ども市長が中心となってクラスごとのまちづくりのテーマを決めた。3つの視点のグループで何をまち全体に広げていくかを話し合っていた。</li> </ul> </li> <li>○模型製作活動           <ul style="list-style-type: none"> <li>1組から4組まで、クラスごとに模型に表現していった。</li> <li>学校周辺のまちをA～Dの4つに分けて、区ごとに10人くらいで協力して作っていった。</li> <li>製作初日には、山形大学の大学生の方々に来ていただき、手伝ってもらった。</li> <li>施設やライフラインなどの機能、まちのつながりはあるか、未来のまちになっているかなど、子ども市長や区長が中心となってチェックをしながら、模型を仕上げた。</li> </ul> </li> </ul>	  	<ul style="list-style-type: none"> <li>視点に沿って調べたことをもとにして、10～15年後の未来はこうなっていたらいいなという自分の思いや願いを加えたものをアイデアにしていった。</li> <li>何度も見直しを行いながら、模型も修正していった。</li> <li>考えたアイデアが模型に細かく表現されていることを目指したが、個人差が大きく、模型への表現の工夫は全体的に足りなかった。</li> <li>模型を見ても伝わらない部分は、写真展と同様に、言葉で伝えるなど、言語活動が必要となった。</li> </ul>
<p>ホール 教室</p> <p>4 時間</p>	<p>「完成披露会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2014年1月28日、保護者、5年生、お世話になった方々をお呼びして完成披露会を行った。</li> <li>全体会では、子ども市長が取り組みの説明を行い、4つの未来のまちの模型を披露した。</li> <li>分科会では、区ごとに分かれて1人1人が自分のアイデアを模型を使って説明した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>全員が自分のアイデアを模型を使いながら発表した。</li> <li>発表は、6年間の学習のまとめと成長した姿そのものだった。</li> </ul>
<p>教室</p> <p>6 時間</p>	<p>「報告書の作成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>模型は解体されるので、報告書としてまとめた。</li> <li>取り組みの概要、各クラスのまちのテーマ、模型の写真、区の特徴、全員のアイデア、メッセージ</li> <li>ユニセフ事務局長、アンソニー・レーク氏、ユニセフ大使アグネスチャンさんが訪問した際に、報告書を渡した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>この時点でも、アイデアを具体的に書けない子が多数いたのは、調査と構想の練り上げが足りなかったといえる。</li> </ul>

# 生徒の作品

1組



2組



3組



4組



# 先生の声

実施に当たり工夫した点  
苦労した点

- ・大学の先生からまちづくりにおける3つの視点（サステナブル、ユニバーサル、セーフティ）を与えてもらったことは、震災の経験を踏まえた、これからの社会はどうあるべきかを子どもたちに考えさせる有意義な活動となった。（持続可能な社会の構築）
- ・「今はこうだ、おそらく10～15年後はこうなっているだろう」というような調査に創造を加える作業が不足していたため、模型の表現やアイデアの説明も不十分なものとなってしまった。（調査＋創造）
- ・この学習活動の中で、それぞれの視点について詳しく調べるには時間的に限界がある。前学年までに環境問題や福祉等を学習し、防災を他教科等で学んできていると、すべてがこのまちづくりの学習につながっていく。（学習の積み上げと関連）

児童・生徒の反応

自分たちの活動は、大人の人たちからも関心を持たれているという意識を持ち、未来のまちの提案は、実現のための第一歩につながることを実感するようになった。模型を興味深く見る下学年の子たちがいた。

教師の変化  
(担当、担当外を含めて)

外部と連携して、現実社会とつながりを持った学習を行うようになった。教師自身が子どもたちとともに楽しみながら取り組むようになった。

## その他

- 6年生の総合的な学習の時間では、キャリア教育の一環として、社会で活躍している人から話を聞いて、自分の将来に夢や希望を持ち、実現のためにどうしていくかを考えさせるような学習活動が多く見られる。まちづくりの学習は、個人に終わらず、さらに、個人の夢や希望をつなげた社会を考えさせる学習といえる。6年生のまちづくりの学習につなげるため、3年から5年までの総合的な学習の時間の内容の見直しを行っていきたい。尚、本校は、来年度から防災安全科を時間割の中に設定して、全学年で防災教育に取り組んでいくこととなったので、関連も図っていきたい。